２０２４年度　安田女子中学校入学試験（Ａ日程）

1　国　語

＊＊＊　開始の合図があるまで、開いてはいけません　＊＊＊

試験が始まるまで、下の〔注意すること〕を読んでおいてください。

〔注意すること〕

- 問題用紙のページは１０ページまでです。　解答用紙が１枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 試験時間は、５０分です。
- 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。
  そのほかの場合は、質問を受けません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴム です。

※問いに字数制限がある場合は、句読点等をふくみます。

一　次の問いに答えなさい。

問一　次の①～⑤の――線部について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

①紙のヨハクに電話番号をメモする。

②ハデな服装は好みではない。

③決勝戦でヤブれる。

④田舎の町で食堂を営む。

⑤新聞部がシュザイをしている。

問二　次の各文に使われている慣用句の誤りを例にならって直しなさい。（ひらがなで書いても良い）

例　仕事の途中で味噌を売ってしまって約束に遅れた。
　　味噌　→　油

①誤ってこれまでの成果を剣に振った。

②お願いしても断られて取り付く山もない。

問三　次の各文の――線部と言葉の意味が同じであるものを次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

①　夕焼けを見ると、運動会のことが思い出される。

ア　熱を出したお母さんのことが気づかわれる。
イ　一度にたくさんの言葉を覚えられる。
ウ　怠け者と言われるようなことはしていない。
エ　昼休みに先生が給食を食べられる。

②　母の作った料理はいつもおいしい。

ア　友達の手紙を見せてもらった。
イ　この子が妹の梅子です。
ウ　このコロッケはぼくのだ。
エ　クマの歩いた跡をたどった。

問四　次の文には、言葉の使い方に誤りがあります。解答らんの書き出しに従って正しく直しなさい。

私の特技は、ピアノを上手にひきます。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

衣服はひとが身にまとうものだ。このことを疑うひとはいないでしょう。しかし、①これは、身体を覆う、あるいは梱包するということとは微妙に異なります。この微妙な差が、人間の装いについて考えるうえでとても重要な意味をもっています。

ファッションは皮膚の延長だと、よく言われます。あるいはまた、衣服は第二の皮膚だとも言われます。こういう言い方をするときには、おそらく、衣服というものがたんなる身体の覆いや容れ物ではないということが＊1含意されているように思います。

そこで、〈わたし〉と身体との関係について考えることから始めましょう。

じぶんの身体というものは、だれもがじぶんのもっとも近くにあるものだと思っています。たとえば包丁で切った傷の痛みはわたしだけが感じるもので、他人は頭でわかっても、わたしの代わりに痛んでくれるわけではありません。その意味で、わたしとはわたしの身体であると言いうるほどに、わたしはまちがいなくわたしの身体に近くにありそうです。

a　、よく考えてみると、わたしがじぶんの身体についてもっている情報は、ふつう想像しているよりもはるかに貧弱なものです。たとえば身体の全表面のうちでじぶんで見えるところというのは、身体の前面のごく一部に限られています。だれもじぶんの背中や後頭部をじかに見たことはありません。それどころか、他のひとたちがこのわたしを〈わたし〉として認知してくれるその顔は、じぶんでは終生、じかに見ることができないものです。ところがこの顔にこそ、じぶんではコントロール不可能な感情や気分が露出してしまいます。②なんとも無防備なことです。

それだけではありません。身体の内部となると、これはレントゲンや超音波撮影機や体内カメラといった高度な技術を使わないと、ぜったいに見ることはできません。身体の内部で起こっている細かいことは、じぶんではぜんぜんわからないのです。じぶんのなかからふつふつと湧き上がってくる欲望や感情、これもわたしたちはなかなかうまくコントロールできません。痛みや病いという現象も、わたしたちには不意を襲うようなかたちでやってきます。それにたいして、わたしたちはただいつも襲われるがままでいるしかないのです。身体とはわたしたちにとってまずは X の滲みでてくるところであるようです。わたしたちの身体は、知覚情報も乏しいし、思うがままに統制もできないという意味では、〈わたし〉から想像以上に遠く隔たったもののようです。

他人の身体ならわたしたちはそれを一つの物体として、他の物体のように見たり触れたりできるのですが、ほかならぬこのわたしの身体は、じぶんではいわばどこかたよりないイメージとして所有することしかできないのです。わたしたちはじぶん自身の身体を、いわば目隠ししたまま経験するしかないわけです。これは考えてみれば、物騒な事実です。フリードリヒ・ニーチェという哲学者は、その著書のなかで、「各人にとっては自己自身がもっとも遠い者である」という、ドイツの古い諺を紹介していますが、③身体についてもまったく同じことが言えそうです。

じぶんの身体はつねにイメージとして思い描くしかない。身体はこのように情報量の少ない、ぼんやりとした〈像〉であり、想像の産物でしかないので、かんたんに揺らいでしまいます。とてももろいものなのです。そしてこのようなもろい身体イメージを補強するために、わたしたちは日常生活のなかでいろいろな技法を編みだしてきたのです。

セイモア・H・フィッシャーというアメリカの心理学者が『からだの意識』という本のなかで興味深い指摘をしています。かれによると、たとえば④風呂に入ったり、シャワーを浴びたりするのが心地いいのは、湯や冷水のような温度差のある液体に身を浸すことによって、皮膚感覚がはげしく刺激され、活性化されるからです。ふだん視覚的には近づきえないじぶんの背中の輪郭が、皮膚感覚の活性化によってにわかにくっきりしてくるというのです。つまり、このことによって〈わたし〉の輪郭が感覚的に補強されるので、じぶんと外部との境界がきわだってきて、じぶんの存在のかたちがたしかなものとなり、気持ちが安らいでくるというのです。

同じような体験は、スポーツや飲酒においても得られます。はげしい身体運動をすると、＊2気化熱で皮膚が収縮して身体表面の緊張が高まるし、また筋肉が凝って、ふだんはぼんやりしている身体部分（たとえば背中や腿の裏側）の存在感が増します。アルコールを摂取すると、血液が皮膚の表面に押し寄せてくるような感覚があって、意識が身体の表面近くに集まってきます。これは他人と身体を接触させたり、マッサージをしてもらったりするときにも体験されます。幼児があぐらをかいている父親の膝のあいだに入ってくるとき、あるいは押し入れや机の下などわざと狭苦しいところで遊ぶのも、きっと同じ効果を無意識に求めてのことでしょう。それらは、〈わたし〉にたしかな囲いを与えてくれます。

b 衣料。これについても同じことが言えそうです。というよりも、衣料こそ、ひとが動くたびにその皮膚を擦り、適度に刺激することでひとにじぶんの輪郭を感じさせるもっとも＊3恒常的な装置だからです。眼で見ることはできない身体の輪郭が、触覚のかたちで確認できるわけです。そしてそのことで、うつろいやすいイメージとしての身体から滲みでる不安をそっと鎮めてくれるわけです。もちろんがんじがらめに締めつけるものだと、活動しているあいだじゅう気になってかえって不便ですから、適度に、その存在を忘れない程度にというのがミソだと思います。

だから、現在では十グラムにも満たないような軽量のワンピースでさえ技術的には製造可能となっているのに、そんなふわふわの服をわたしたちは着ようとしません。着ているか着ていないかわからないくらいソフトで、体表をまったく刺激しない服など、⑤服としての意味をもたないからです。「からだにやさしい服」などといった宣伝コピーをよく耳にしますが、ほんとうはからだにやさしすぎる服をひとは求めないものなのです。

（鷲田清一『ひとはなぜ服を着るのか』による／一部改変）

〈注〉

＊1 含意されている…表面にあらわれていない意味があるということ。

2 気化熱…体表の水分が蒸発するときに奪われる熱。

3 恒常的…つねに一定で変化がないことをさすことば。

ここでは、一般的な、手軽な、ほどの意。

問一 □部a・bに入る語として最も適切なものを、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア そして　**イ** だから　**ウ** まず

エ なぜなら　**オ** ところが

問二 ──線部①「これは、身体を覆う、あるいは梱包するということとは微妙に異なります」とありますが、これと同様の内容を述べた部分を、次の説明にあう形で十五字以上、二十字以内でぬき出しなさい。

衣服は（　十五字以上、二十字以内　）ということ。

問三 ──線部②「なんとも無防備なことです」とありますが、どういうところが「無防備」なのですか。四十字以上、五十字以内で説明しなさい。

問四 ──線部③「身体についてもまったく同じことが言えそうです」とありますが、どのようなことを「同じこと」と言っているのですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア じぶんの身体を、大切にあつかうことができないこと。

イ じぶんの身体が、他人の身体よりもおとっていること。

ウ じぶんの身体と他人の身体の違いが、わかりにくいこと。

エ じぶんの身体なのに、じぶんではよくわからないこと。

問五　――線部④「風呂に入ったり、シャワーを浴びたりするのが心地いい」とありますが、このように感じるのはなぜですか。筆者の考えをまとめた左の説明のうち、空らんにあてはまる最も適切なことばを、それぞれの指定字数で本文中からぬき出して答えなさい。

> じぶんの感覚と異なるものに触れると、（1　五字以内　）のはたらきが強くなり、（2　十字以内　）を強く意識することになった結果、（3　十字以内　）から。

問六　――線部⑤「服としての意味」とはどのような意味ですか。三十字以上、四十字以内で説明しなさい。

問七　□部Xに入ることばとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　不安　　**イ**　悲しみ　　**ウ**　恐怖　　**エ**　焦り

問八　本文の特徴に関する説明として**適切でないもの**を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　専門家の著書を引用することで、筆者の考えに説得力を持たせようとしている。

イ　丁寧な表現を使った文体を用いることで、読者に与える印象を柔らかいものにしている。

ウ　例を多く用いることで、読者が筆者の考えを具体的にイメージできるよう工夫している。

エ　「じぶん」や「わたし」のようにひらがなで表現することで、考えの正しさを表現している。

三　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

長沼裕は、両親が離婚したことにより父と二人で横浜から福岡へ引っ越し、新しい小学校に転入した。離れて暮らす母や横浜の友達からラインでたくさんのメッセージが届く中、福岡での新しい生活を始めている。

福岡へきてから二週間目に入ると、クラスのみんなはぼくという転入生になれて、ぼくも転入生という立場になれた。

でも、「なれる」と「とけこむ」はちがう。ぼくはあくまで転入生で、みんなとは言葉のアクセントもちがうし、これまで生きてきた道筋もちがう。出身の幼稚園も、修学旅行で行ったさきも、毎日食べてきた給食も。

「こまっとーことなか？」

「テストの範囲、知っとー？」

「生徒用がこんどるときは、先生用のトイレも使ってよかけんね」

あいかわらず、みんなは気をつかっていろいろ話しかけてくれるけど、ぼくは感じよく答えるのにだんだんつかれてきた。

「どうね、長沼。元気にしとーか？　健康男子なら、もっとパリッとせい。ガッツたい、ガッツ！」

大村先生のこういうノリにもつかれてきた。

「裕。電子レンジじゃたまご焼きは作れん。父さんはまたひとつ学んだとよ」

家じゃ家で、新生活一年生の父さんにふりまわされて、すっかり食欲をなくしている。

どうしちゃったんだろう、ぼく。

ときどきふっと不安になる。

なんにもしてないのに、朝から晩まで、①なんだかずっとつかれてる。

勉強もやる気にならないし、ゲームでさえもはりきれない。

横浜のともだちや母さんからのラインも、最近はあんまり楽しめない。

みんな、いろんな言葉でぼくをはげましたり、応援したりしてくれる。

でも、ぼくがほしいのは、②そういう言葉じゃないような気がする。

「ケイドロやらん？」

クラスの男子にさそわれた日も、ぼくはパリッとしないまま放課後をむかえて、ひとりで家に帰ろうとしていた。

「ケイドロ？」

なんだそれ、と思った直後に、あ、もしかして……とピンときた。

「ドロケイのこと？」

「ドロケイ？」

「おにごっこみたいなやつ。泥棒と警察の」

「うん……え？　横浜じゃ、ケイドロんことドロケイ言うとね？」

「うん」

「ぐええーっ」

福岡では「ケイドロ」で通ってるらしい遊びが、横浜では「ドロケ

イ」とよばれている。
その事実を知ったみんなのリアクションは異様に大きかった。
「ばり衝撃たい！　おんなじ遊びなのに、警察と泥棒がさかさまになっとーとね。『ポケモン』を『モンポケ』って言うようなもんやね」
「そりゃ、ちょっとちがうちゃない」
「ばってん、横浜の泥棒はすごかね。警察よか上に置かれるとったい」
「横浜の泥棒は地位が高かー」
「横浜の警察はなさけなかー」
「な、今日はおれらもケイドロじゃなくて、ドロケイばやらん？」
「よかね。おれ、今日は警察より泥棒やりたか」
「おれも泥棒がよか」
「泥棒ば公平にジャンケンで決めるとよ」
あれよあれよと男子のほとんどが集まってきて、「③ところ変われば泥棒のステータスも変わる」みたいな話でわき、その流れで横浜風のドロケイ（中身はいっしょだけど）をやることになった。
ふだんはすぐ家に帰るガリ勉や、本ばかり読んでるおとなしい子も、その輪のなかにくわわった。
もちろん、ぼくも。
しかも、ぼくは六年二組にドロケイをもたらした＊1功績により、ジャンケン免除で泥棒の座を手に入れて、さらに「泥棒チームのおやぶん」というよくわからない身分をあたえられたのだった。
そんなこんなで、みんなで外へ飛びだして、西日で赤い校庭でドロケイをはじめて――、
めちゃくちゃもりあがった！
「せっかく泥棒になれたとよ。警察ごときにつかまるわけにゃいかんたい」
「格下の警察なんか＊2いっちょん怖なかぞ」
「どけどけ、泥棒さまのお通りじゃ！」
泥棒がいばれる、というなぞのルールのもと、泥棒チームは警察チームをからかったり、挑発したりをくりかえした。そのくだらないからいばりがウケて、だれかが声をあげるたび、どっと笑いがわきおこった。＊3さかずきをかわした（って設定の）泥棒どうしの結束もかたく、調子にのりすぎただれかが警察につかまったときには、みごとなチームワークと多少のズルで牢屋から＊4奪還した。
ぼくは一度もつかまらなかった。
みんなが守ってくれたから。
「おやぶん、そこはきけんたい。水飲み場にかくれとったほうがよか」
「おやぶんはむりばせんで、あっしらにまかせとき」
「みなのしゅう、命にかえてもおやぶんば守るばい！」
おやぶん、おやぶんとみんなは体をはってぼくをガードし、みずからおとりになったり、警察のじゃまをしたりと、大奮闘。なかには、追いつめられたぼくを助けるために、「真犯人はここばーいっ！」と、いきなり自首するやつもいた。
「おやぶん、今のうちに逃げるとよ。＊5天涯孤独のこのおれを、ここまで育ててくれたご恩ば、今こそ返すときたい！」
あきらかに、泥棒と＊6極道の世界をごっちゃにしているやつもいた。
そんな芝居がかったみんなの一挙一動がたまらなくおかしくて、なんども足から力がぬけた。あっちで、こっちで、地面につっぷし、笑い転げてるやつがいた。警察も職務放棄していっしょに転がっていた。

ぼくも校庭の砂にまみれて笑いまくった。せいだいにゲラゲラ笑ったり、身もだえながらひくひく笑ったりした。

ひさしぶりに笑いすぎて腹が痛くなった。

息が切れるほどかけまわったのもひさしぶりだった。

走ったり、さけんだり、笑ったりしているあいだに空はみるみる暗くなって、遠い人影が泥棒か警察かわからなくなったころ、ドロケイはあっけなく幕を閉じた。

「そろそろ帰らんと」

だれかがつぶやいた。それが合図だった。

「おれも」「ぼくも」と声が続いて、みんなは泥棒や警察から元の小学生にもどった。

ぼくも④元の転入生にもどろうとした、そのときだった。

「おやぶん」

うしろから声がして、ふりむくと、男子のひとり——小林くんが笑ってた。

「またあした、遊ぼうや！」

またあした、遊ぼうや。

たったひとこと。短い言葉だった。日本中のどこにでも転がってるような、よくあるへいぼんなあいさつでもあった。

なのに、⑤心が、遠い星へ発つロケットみたいに、ぐわんとうきあがった。

またあした。

またあした。

またあした。

さんざんドロケイで走ったあとなのに、帰り道もぼくは走った。ぺこぺこのおなかをぐうぐう鳴らしながら、薄闇にうもれた野菜畑をかすめて、家まで一気にかけぬけた。

小林くんの声を思いだすたび、地面をける足に力がこもって、あしたから、はりきれる気がしてきた。

小林くんがくれたのは、あしたの言葉。

新しい町へきたぼくの、⑥新しい未来へつながる言葉だった。

（森絵都『あしたのことば』による）

〈注〉

＊1 功績…あることのために成しとげた、すぐれた働き。

＊2 いっちょん…九州の方言で、「少しも」の意味。

＊3 さかずきをかわした…「親分子分の約束を固めるために酒を飲み交わした」という意味。

＊4 奪還…うばいかえすこと。

＊5 天涯孤独…この世に身寄りが一人もいないこと。

＊6 極道…ここでは悪事を行う人の意味。

問一　──線部①「なんだかずっとつかれてる」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　家事に慣れていない父の作る料理が口に合わず、食欲をなくして栄養失調になっているから。

イ　大好きだった母と離れて暮らすことになり、母がそばにいないことを不安に思っているから。

ウ　新しい小学校ではクラスになじめておらず、家では父と二人の生活に慣れていないから。

エ　新しい小学校での勉強が難しくて自信を失い、やる気がなくなってしまったから。

問二　──線部②「そういう言葉」とはどういう言葉ですか。次の文の（　）にあてはまるように五字以上、十字以内で答えなさい。

（　　）の言葉

問三　──線部③「ところ変われば泥棒のステータスも変わる」について、後の問いに答えなさい。

（1）「ところ変われば泥棒のステータスも変わる」は「ところ変われば（　）変わる」という慣用句をもとにした言い回しです。（　）にあてはまる言葉として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　悪　　**イ**　品　　**ウ**　人　　**エ**　職

（2）「ところ変われば泥棒のステータスも変わる」について説明した次の文の［1］・［2］にあてはまる内容を、それぞれ五字以上、十字以内で答えなさい。

横浜では「泥棒と警察のおにごっこ」を「ドロケイ」といい、語順が［1］になっているので、泥棒の地位が［2］ということ。

問四　――線部④「元の転入生」とはどういう転入生ですか。「元の」という言葉の意味に注意して十五字以上、二十字以内で答えなさい。

問五　――線部⑤「心が、遠い星へ発つロケットみたいに、ぐわんとうきあがった」について、後の問いに答えなさい。

（1）「心が、遠い星へ発つロケットみたいに、ぐわんとうきあがった」に使われている表現技法として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　体言止め　　**イ**　倒置法（とうちほう）　　**ウ**　反復法　　**エ**　比喩（ひゆ）法

（2）「心が、遠い星へ発つロケットみたいに、ぐわんとうきあがった」は、裕（ゆう）のどのような状態を表現していますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　気があせっている状態。　　**イ**　心がおだやかな状態。

ウ　気分が高まる状態。　　**エ**　落ち着かない状態。

問六　――線部⑥「新しい未来へつながる言葉」は、具体的には小林くんが裕にかけた「またあした、遊ぼうや！」という言葉ですが、この言葉は裕にとってどのような気持ちの変化をもたらす言葉であるといえますか。「転入生」「あした」という言葉を用いて五十字以上、六十字以内で答えなさい。

問七　この文章の表現に関する説明として**適切でないもの**を次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「またあした」という言葉のくり返しにより、裕がこの言葉に大きく心を動かされたことを表現している。

イ　視点が裕から他の登場人物に移り変わりながら物語が進行し、登場人物の心情を豊かに表現している。

ウ　クラスメイトや先生の会話に方言を多く用いており、裕が転入生であることをきわだたせている。

エ　短い文を多く用いることにより、それぞれの場面での状況（じょうきょう）や裕の心情などを簡潔に表現している。

オ　会話文を多く用いることにより、裕と他の登場人物とのやりとりを生き生きと表現している。

二〇二四年度　安田女子中学校入学試験（A日程）　国語　解答用紙

名　前

受験番号

一

問一
① な
② れる
③
④ む
⑤

問二
① ↓
② ↓

問三
①
②

問四
私の特技は、

二

問一
a
b

問二

問三

問四

三

問一

問二
の言葉

問三
（1）

（2）
1
2

問四

問五
（1）
（2）

問六

問七

問八

二

問五
1
2
3

問六

問七